

第4回 日本海における大規模地震に関する調査検討会 議事要旨

日時：平成25年8月26日（月）15：00～17：00

場所：中央合同庁舎2号館 低層棟1階 共用会議室2A、2B

1. 結果概要

- 今年度中を目途に日本海側で想定される津波発生の要因となる大規模な地震の断層モデルの設定を行う。
- 日本海における大規模地震に関する調査検討会 海底断層WG（以下、「海底断層WG」と呼ぶ）を設置することとする。WGは、断層の位置・長さ等の断層パラメータ（案）を検討し、調査検討会において評価する。

2. 主な説明や意見等

(1) 日本海周辺の震源断層モデルの構築に向けて

- 佐藤比呂志東京大学教授より、以下の紹介があった。
 - ・ ひずみ集中帯の重点的調査観測・研究プロジェクトにより、日本海東縁部には、大陸地殻等、構成されている地殻構造によって、形成場の異なる3タイプの震源断層が存在する可能性が示唆された。
 - ・ 今後、文部科学省による日本海地震・津波調査プロジェクト（H25-32）において、反射法地震探査・海底自然地震観測・レオロジーの検討など、新たな観測と総合的な検討による震源断層をマッピングしていく予定 等

(2) 日本海で発生する地震と津波の報告

- 谷岡勇市郎北海道大学教授より、第199回地震予知連絡会（平成25年5月）において発表された重点検討課題「日本海で発生する地震と津波」の紹介があった。
 - ・ 日本海東縁部の震源断層に関して、構造探査・地殻変動観測、地形・地質学的調査、歴史地震学的調査による知見が紹介された。

(3) 今年度の検討内容

- 日本海の地震・津波は、発生頻度が低いため、地震・津波の発生履歴や規模等が明らかでない。そのため、本検討会では、海域の活断層に関する独立行政法人産業技術総合研究所等の最新の知見を活用して検討を進める。
- 今年度中を目途に日本海側で想定される広範囲に影響を及ぼす津波発生の要因となる大規模な地震の断層モデルの設定を行う。
- 海底断層WGを設置することとする。WGは、断層の位置・長さ等の断層パラメータ（案）を検討し、調査検討会において評価する。
- 活断層の連動性評価は、地震調査研究推進本部の手法を参考としつつ、断層モデルを作成する。
- 日本海の地震については、断層の長さや幅に基づいてすべり量を評価するのに必要なスケールング則が明らかでないため、検討が必要。
- 全ての断層についてモデルを検討する必要はなく、重要な断層を選定する必要がある。
- 日本海の津波堆積物調査結果は、調査対象領域や調査地点数が十分とはいえず、今後の調査が必要である。今回の検討においては、必要なものについては比較にとどめる。また、比較においては、津波堆積物による痕跡高は局所的に高くなる場合があり、注意を要する。
- 国土交通省と内閣府、文部科学省と緊密に連携して検討を進める。

以上